

3 交通安全における実践事例

交通安全①

体験的な学習を取り入れた自転車の安全運転の意識を高める 学習事例

高等学校 全学年 特別活動（ホームルーム・学校行事）

単元（題材）について

1 題材名 自転車安全利用について考えよう

2 安全教育上の目標

Ⅱ－2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通法規を守って安全に乗車することができるようにする。

3 教材化の視点

通学等で日常的に自転車を利用する機会が増える高校生には、交通ルールや歩行者、交通弱者の視点に立った安全運転を身に付けることが必要である。

本単元では、「自転車シミュレータ」、「スケアード・ストレイト方式※」による体験的な学習を取り入れ、自転車利用の危険性について学び、生徒が自転車の安全運転の意識を高める学習を設定する。生徒には、これまでの自転車運転の経験を想起させた上で、社会における自転車安全利用の重要性を理解させ、自転車の安全運転の意識を高めさせる。

※スケアード・ストレイト方式…スタントマンによる交通事故再現による交通安全教育

指導計画（4時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○登下校時における危険箇所を想起する。 ○自転車安全利用五則を確認する。	◎これまでの自転車の利用の仕方について振り返らせる。
2 (本時)	○自転車シミュレータを体験する。 ○様々な場面における危険性を予測する。	◎映像から「自分なら、どのように予測するか」などを考えさせる。
3	○交通安全座学講習会を受講する。	◎知らなかった交通ルール・交通マナーについて確認させる。
4	○交通事故の発生状況について知る。	◎「スケアード・ストレイト方式」を通して、自転車利用時の危険性に気付かせる。

指導の工夫


「自転車シミュレータ」、「スケアード・ストレイト方式」の体験的な学習を基に、様々な場面における危険性について予測させる機会を設定する。

指導事例（第2時／4時間）

1 ねらい

「自転車シミュレータ」を通して、安全な自転車の乗り方に対する認識を深めるとともに、歩行者の視点に立った安全運転の意識を高めることができるようにする。

2 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標を確認する。 ・今までの学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎本時を通じて、安全運転の必要性や地域社会の一員であることを確認させる。
	危険運転を未然に防ぐために必要なことは、何かを考えよう	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車シミュレータを体験する。 ○具体的な危険について気付く。 ・歩道を走る時…対人 歩道通行上のルール ・車道を走る時…対車 車両としてのルール 	<ul style="list-style-type: none"> ◎シミュレータ体験を通して、自分事として捉えられるようにする。  <ul style="list-style-type: none"> ◎生徒から感想を聞き、共有できるようにする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○「危険運転を未然に防ぐために必要なことは何か」、グループで話し合う。 ○学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■危険運転防止の観点から意見を出し合っている。 ◎自転車利用の注意点について考えさせる。

生徒の学習状況

- 自転車シミュレータでの体験的な学習を意欲的に取り組む様子が見られ、普段から使用している自転車の乗り方について振り返っていた。
- 自転車の安全利用について、講師の話をも熱心に聞き、学習のまとめでは、これまで知らなかった事例について記述していた。

生徒の変容

- 自転車の利用と交通規則について理解し、自転車は軽車両であるという認識と加害者にもなり得るといった危機意識を高めるとともに、安全運転の重要性に気付く姿が見られた。